

東京大学大学院人文社会系研究科人文情報学拠点が 中国デジタル図書館国際協力計画（CADAL）に日本初の加盟

1. 発表者：

下田 正弘（東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文学開発センター
人文情報学拠点長／インド哲学仏教学専門分野 教授）

2. 発表のポイント：

- ◆東京大学大学院人文社会系研究科人文情報学拠点が、中国の国際デジタル図書館ネットワーク CADAL に日本で初めて加盟し、270 万件のデジタル化資料が東京大学から閲覧範囲の制限なく利用可能になりました。
- ◆CADAL への加盟にはデジタル資料の提供が必須ですが、現在日本にはこのネットワークにデジタル資料を提供できる図書館が存在しないため、代わって大学研究機関が対応することで、日本からの CADAL 加盟を実現しました。
- ◆中国に関する全分野の研究のデジタル知識基盤を、国際学術ネットワークのなかで日本の大学が協働して構築する、重要な一歩となりました。

3. 発表概要：

2018 年 1 月 16 日、東京大学大学院人文社会系研究科人文情報学拠点は、浙江大学（中国）を中心に展開する国際的デジタル図書館ネットワーク CADAL（中国デジタル図書館国際協力計画）に、日本の機関として初めて加盟しました。CADAL は、2015 年時点で、中国を中心とする 270 万冊以上の書籍や雑誌を収録し、70 以上の中国の主要機関および欧米・インド等の機関が参加するデジタル図書館の大規模ネットワークです。人文情報学拠点は、このたび、拠点を構築された中国研究関連のデジタル学術資料を CADAL と共有することで、CADAL 正式メンバーに認められ、東京大学から CADAL 所蔵の全データへのアクセスを可能としました。その結果、中国の膨大な資料が全学で利用可能となり、東京大学における中国に関わる教育研究が広く裨益される環境が整いました。

CADAL は研究ネットワークでもあるため、研究機能をほとんど備えず、提供できる独自のデジタル資料を整えていない日本の図書館が加盟することは、難しい状況にありました。今回の人文情報学拠点の加盟は、大学研究組織が海外研究図書館ネットワークのカウンターパートの役割を果たし、日本の図書館がかかえる障壁を乗り越えた点で、国際連携によるデジタル研究基盤形成のモデルになるものです。ことに、欧米に留まらず、中国をパートナーとする研究ネットワークの一角を占めることは、アジアの知の拠点をめざす日本にとって重要な一歩となります。

4. 発表内容：

2018 年 1 月 16 日、東京大学大学院人文社会系研究科人文情報学拠点は、浙江大学（中国）を中心に展開する国際的なデジタル図書館ネットワーク CADAL（中国デジタル図書館国際協力計画）に、日本の機関として初めて参加いたしました。

CADAL には、2015 年時点で、中国を中心とする 270 万冊以上の書籍や雑誌がデジタル化され収録されています。その内訳は、古典籍 23 万点超、中華民国時代の図書 17 万点超、中華民国時代の雑誌 15 万点超、現代の中国語図書 69 万点超、学位論文 16 万点超、外国語図書 76 万点超、新聞 19 万点超、図形画像 10 万点超となっています。

これらの資料に対し、CADALの加盟機関は利用範囲に制約のないフルアクセスを認められている一方で、加盟機関に所属しない一般のユーザは、ユーザ登録をすることで一部資料の閲覧を認められるにとどまっています。一般ユーザは、書誌情報データの修正をする貢献によってコンテンツ閲覧範囲が拡大するのですが、実際にこの貢献で得られる利用範囲は個人ではきわめて限られており、機関として参加しなければ研究に必要な便宜を得られないのが実情です。

CADALには、現在までに、70以上の中国の大学や図書館の主要機関、およびハーバード大学、イェール大学、ベルリン国立図書館等、欧米やインドの有力な諸機関が参加し、所蔵される膨大な資料を共有して研究活動を進めてきました。一方、日本の図書館や研究機関は、独自のデジタル資料をCADALに提供しえず、CADALに加盟できなかったため、日本の研究者にはCADALの資料アクセスに大きな制約がありました。かかる膨大な資料の自由な閲覧ができないことは、研究にとって致命的ともいえる障害であり、このままでは日本における中国に関する教育研究が世界から遅れを取りかねないとの危惧が高まり、解決を望む研究者の切実な声が、日本学術会議の提言をとおして寄せられていました。

人文情報学拠点を拠点として活動を展開する「SAT大蔵経テキストデータベース研究会（代表委員・下田正弘人文情報学拠点長）」は、公益財団法人全日本仏教会の財政支援により、東京大学総合図書館所蔵の万暦版大蔵経のデジタル化を完成し、そのデータをこのたびCADALと共有しました。この実績が高く評価されてCADAL加盟が実現し、CADALの全資料に対する、東京大学のネットワークからのフルアクセスが実現されました。これによって、これまで日本からは一部しか入手できなかった膨大なデジタル化資料が利用可能となり、中国に関わる東京大学全学の教育研究分野が広く裨益される環境が整いました。

現在、世界の大学、図書館、博物館、研究機関は、デジタル知識基盤の国際的ネットワークをいかに共同で構築し、その過程でいかにリーダーシップを取りながら、世界標準を実現するかという課題に直面しています。アジアにおける知の拠点を目指す日本の大学が、欧州や北米にとどまらず、中国やインドの国家規模のプロジェクトと共同し、次世代に向けた知識基盤構築の役割を果たすことは、きわめて重要であります。

CADALは、国際デジタル図書館の機能をもちつつ、国際研究ネットワークでもあります。今回の人文情報学拠点のCADAL加盟は、国際研究図書館ネットワークのカウンターパートの役割を日本の大学研究組織が果たすことで、日本の図書館がもつ課題を解決し、国際デジタル図書基盤との協働を日本において企図する、一つのモデルとなることが期待されます。